

# 第52集 研究紀要

## 三好教育研究所



豊かな感性や思考力の芽生えを培う保育内容の創造  
～小学校との連携の中で育つ「学びの芽生え」～

大野幼稚園 教諭 谷本 紀子  
(現 三縄幼稚園 教諭)

幼稚園においても「学力向上」が重要視され、幼稚園における教育から小学校における教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉え、教育の連続性や一貫性が求められている。そこで、小学校との連携の中で、「学力の向上」をめざし、日々の実践に取り組み、研修を進めてきた。



地域から学び、ふるさとを愛する心豊かでたくましい子どもの育成  
～学びを生かし、自らを表現できる佐野っ子をめざして～

佐野小学校 教諭 山田 知弘

本校児童はどの子も素直で決まったことや与えられた課題には真面目に取り組み、きちんとやり遂げることができている。しかし、その一方で自ら進んで学んだり新しいことに取り組みだりする意欲、自分の思いや考えを相手に伝える表現力などが十分でない。また、大勢の中や慣れない場での活動や発言にはとまどう姿が見られる。これらの課題を克服し、子どもたち一人ひとりが自分に自信をもつとともに、ふるさと「佐野」からたくさんを学び、ふるさとを愛する心をもったたくましい子どもを育てていくために、教育活動全体を通して様々な取り組みを計画・実践している。その研究の一端をまとめた。



人や地域とつながり、協働できる生徒の育成

～「コミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」をとおして～

西祖谷中学校 教諭 西岡 ひとみ

家族的な学習環境の中、17名の生徒たちの課題である受け入れる力・伝える力、人間関係調整力の向上を目的に、プロの芸術家（俳優・シンガーソングライター等）を講師として取り組むコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業も2年目（文化庁国語課事業から通算4年目）を迎えた。

本年度は地域の小学校との連携のもと、異年齢間での話し合いや創作活動をとおして、地域の仲間としての連帯する力や態度、協働する力などを養うために9日間（7月～9月）のワークショップを開催した。

三好市・三好郡の中学生の都道府県認知のイメージ

三好教育研究所 研究員 山西 敏広

昨年度「三好市・三好郡の中学生の都道府県認知の実態」を調査し、分析した。その調査において、「無回答」が多くを占める県もあり、まずは都道府県の名称を意識的に認知させる必要があることを提起した。なぜならば、「都道府県の名称と位置」は社会科学習にとっては、「座標軸となる知識」であり、学習や情報の「抽斗（引き出し）」としての役割があると考えたからである。そこで、今回は三好市・三好郡の中学生が各都道府県に対してどのようなイメージを持っているか、またはどのようなことを知っているかを調査し、今後の「都道府県認知の一助」としたいと思い、研究テーマとした。



平成23年度三好都市小・中学校学級担任の情報モラル教育

～グループウェアによるアンケート調査と低・中・高学年研究授業より～

三好教育研究所 研究員 山口 恭史

三好教育研究所が平成22年度に実施した「三好都市小・中学校学級担任情報モラル教育に関するアンケート」調査結果より、情報モラル教育の指導資料・教材が不十分であるという考えと、小学校中学年から情報モラル教育を開始すれば良いという意見が多いことがわかった。

そこで、「三好都市小・中学校学級担任情報モラル教育に関するアンケート」の質問内容を一部変更して、23年度の三好都市小・中学校学級担任へ三好教育会グループウェアのメッセージ機能を使って送信した。回答結果を低・中・高学年別、小・中学校別のグラフにして、学年や小・中学校による違いや共通点を分析した。

また、三好都市全小・中学校で利用可能な情報モラル教材とICT機器を活用して、3つの小学校の低・中・高学年で、児童の発達段階に応じた授業を行って、考察を深めた。





### 人とかかわる力の育成 ～友達と心を通わせていくために～

池田幼稚園 教諭 城尾 春菜

幼児期は、友達や教師、環境などのかかわりの中でさまざまな経験をし、人やものとかかわる力や、社会的態度、生きていくための力を身につけていく重要な時期である。

友達のかかわりを通して、さまざまな葛藤体験をし、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら、自他ともに大切にすることを育てたいと考え、「人とかかわる力の育成 ～友達と心を通わせていくために～」という研究主題のもと、実践に取り組んだ。



### 基礎的・基本的な学力と表現力の育成 ～自分に自信をもち、思いを表現できる子どもを育てる～

加茂小学校 教諭 小角 聡志

現代は、インターネットを通じて様々な情報が容易に獲得できる、高度情報化社会である。便利である一方、人と人とのつながりの希薄さが課題とされ、自分の思いを伝えられない現代人が増加している。

本研究では、「基礎的・基本的な学力」を育てながら「表現力」を高めることを目標とし、実践・考察を行っている。文章表現や多様な意見発表を通して、自分の思いを形にできる、主体性のある児童を育てる。児童にどのような変化が起きたのか、その成果と課題を確認していただきたい。



### 人権確立をめざす教育内容の創造 ～一人ひとりの子どもに寄り添い、共に成長していける学級づくりをめざした2年間～

辻小学校 教諭 平尾 昌彦

社会の変化に伴い、多様な背景を持つ家庭が増えている現在。そのような生活環境の中、「しんどい」思いを抱えながら登校してくる子どもが本校にも少なからず在籍する。そのような実態を差別の現実ととらえ、真に一人ひとりの心の居場所となる学級・学校づくりをめざした二年間の人権教育実践。一人の子ども(Kさん)を中心とした学級づくりの具体的な事例とともに、自尊感情やコミュニケーション力の向上を図るための全学的な取組の一端を紹介する。



### 「歯・口の健康づくり」の取り組み

三縄小学校 養護教諭 安藤 久子

歯・口の健康は全身の健康に影響し、全身の健康のためにも歯・口の健康は大切である。学齢期は生涯の健康づくりの基盤であり、この時期に、将来につながり広がる「歯・口の健康づくり」の取り組みは意義があると考えられる。

そこで、歯みがき教室や児童委員会活動、給食後の歯みがき指導等を通して、歯・口の大切さを認識させ、生活習慣・態度の育成および向上を図ることにした。



### 生涯を通じて歯・口の健康づくりに取り組む児童の育成 ～自分の歯にあった歯磨きの習慣化を目指して～

友友小学校 養護教諭 平岡 千佳

歯・口の健康づくりの取り組みは、「健康」という子どもにとって難しい概念を、目で見て理解することができる学習材としての価値がある。本校の健康課題は、う歯の罹患率が高いことであり、特に歯磨き指導を中心に歯・口の健康づくりに取り組んだ。

本研究を通して、児童自身が自分の歯・口の健康について関心をもち、生涯を通して必要となる自己管理能力の基礎を培うことができるように実践を進めた。



### デジタルコンテンツの効果的な活用方法について

西祖谷中学校 教諭 常村 淳

近年、各学校にパソコンが普及し、いろいろな教育活動に活用することが求められている。そのなかでデジタルコンテンツを授業に活用しようという動きも少しずつ広がってきている。そこで本研究では、基礎学力の向上に役立つデジタルコンテンツを作成し、それを活用した実践を行った。生徒によって基礎学力の習得度合いは様々であるが、段階的に分けられたヒントを繰り返し見ながら解答できること、解説にアニメーションを取り入れたことなどデジタルコンテンツの特色を生かした自主学習システムを行うことが、それぞれの生徒の基礎学力を向上させるのに役立つことがわかった。



### 「ふるさとへの誇りを育み、仲間とのつながりを深める生徒の育成」 ～祖谷衆太鼓の復活を通して～

東祖谷中学校 教諭 山口 義明

本校では「祖谷衆太鼓」を復活させた。一度は消えかかった東祖谷の文化である。中学生が復活させた祖谷衆太鼓は、いろいろな方からの反響を呼んでいる。そして、生徒たちは「これからも祖谷衆太鼓を続けたい」また「続けて欲しい」という願いを持った。心をつなげて太鼓を演奏し、観客の心に訴えることで、祖谷衆太鼓を東祖谷の伝統として残していこうとしている。ふるさとを誇りに思う気持ちの高まりへとつながったと確信する。